

## 平成 21 年度海岸工学委員会幹事会（第 2 回）議事録

日 時：平成 22 年度 4 月 14 日（水） 14:00～16:00

場 所：土木学会 AB 会議室

出席者：灘岡委員長，後藤幹事長

青木，岡安，重松，武若，水谷，横木，川崎，小林，佐々木，富田，日向，森，  
渡部，小笠原，柿沼，栗山，黒岩，佐藤，柴山，諏訪，山本，森屋（敬称略）

議事：

### 1. 報告事項（後藤幹事長）

- ・東北地区の高橋幹事から小笠原幹事，小野委員から梶原委員への交替の報告があった。
- ・内閣官房総合海洋政策本部の調査およびヒアリングに対して，海洋開発委員会と共同で対応した。
- ・土木学会の重点研究課題に数値波動小委員会から応募したが不採択となった。
- ・調査研究部門研究企画委員会・分野選出委員として，水工学委員会の辻本教授（名大）を選出した。
- ・小委員会設置手続の簡素化として，担当理事の承認が不要になった。
- ・海岸施設設計便覧の英文版の残部が 170 部ある。絶版に伴い本年 9 月に処分されるので，各幹事で保管できる分を保管し，海外の研究者へ遺贈するなど有効活用する。土木学会が着払いで各幹事へ送付する。
- ・第 56 回海岸工学講演会（水戸）は，参加者数（記帳者数）583 人，懇親会参加者 168 人であり盛況であった。決算は配布資料の通り（横木委員）。

### 2. 第 57 回海岸工学講演会(海岸工学論文集第 57 卷)応募論文審査について(青木小委員長)

- ・登録論文数 354 編であり，副査 5 名を編集委員として追加し，査読者一人当たり約 16 編の査読を行った。査読手順は従来通りであるが，平均点 3.5～4.0 とした。
- ・採択論文は 298 編，内訳は 17 点以上の論文 278 編（1 点が付いた 1 編は理由および他の査読者の評価を検討し採択），16 点 40 編から 5 人の査読者の点数が 33334 の論文 19 編，15 点以下の論文のうち 1 点の理由（2 重投稿の懸念）を検討し，採択とした論文 1 編，応募数が減る傾向にあり，採択率は 84.1%となったが，昨年と同じ基準で採否の決定を行った。
- ・アブストラクトの段階で 2 重投稿かどうか判断できないため，本論文投稿時にチェックする。査読者の意見は著者にどう伝えるかは編集委員会で検討する。
- ・採択率が高すぎると，質の低下が懸念されるので，応募数を上げていく努力が必要である。企画構想 WG で戦略を考えていく。
- ・英文論文は今朝の段階で 8 編，最終的には 15～20 編の投稿を見込んでいる。

- ・投稿料は最大 4 万円であり，精査し可能であれば 3.5 万円程度まで減額したい。
- ・第二段階査読，修正原稿に対する判定は A か D のみ，D 判定は主査のみで判断しない。
- ・J-Stage 対応の原稿提出明細書（CSV ファイル）の作成について，注意事項等の報告があった。
- ・カラー図表可（冊子体はモノクロ組版），白黒で見えないものは，査読者が著者に指摘するが，著者が了解しているのであれば，修正してもらわなくて良い。

### 3. 編集調整会議および論文集再編小委員会報告（青木小委員長）

- ・B 部門の編集体制の報告があり，海岸工学委員会から田島氏（東大）と由比委員兼幹事が参画している。
- ・編集調整会議および再編小委員会には，B2 青木委員，B3 水谷委員が参加する。
- ・新しい論文集は 2011 年 1 月スタート。No.1～No.3 が通常号，No.4 が特集号，特集号のページ番号は S\_1, S\_2・・・となる予定。
- ・J-Stage でページ番号に S がつけられるか確認する。
- ・B 部門論文の振り分けは編集小委員会の判断となる予定。海岸工学委員会として，著者が投稿先（B1 か B2 か B3 か）を選択できるように申し入れる。ページ番号についても S がつかないように申し入れる。
- ・英文論文集は B 部門で 1 つ。JHHE はなくなり，JHHE が B 部門の英文論文集を引き継ぐ。論文名はこれまでの土木学会論文集の英文名のまま Coastal も入る。
- ・論文集のタイトルに Coastal が入らない方がよい。CEJ に投資したほうがよい。Coastal を入れる，入れないという両方の考え方があり。B 部門の英文論文集は広く構えてすぎである。水工と海岸で連携していくことを想定しておかなければならない。CEJ の内容はかなり狭いので，もう少し発展的な戦略を見ていかななくてはならない。などの意見が出た。
- ・以上の意見を踏まえて，英文論文集については，費用面で海岸工学委員会からの負担が生じないこと，人員面でも海岸系の論文投稿数に応じた負担に留めることについて B 部門編集委員会において青木委員・水谷委員から確認することとなった。
- ・B2 分冊のキーワード（和英）のチェック，磯部前委員長のチェック済み，4/26 までに編集調整会議に報告する。

### 4. 第 57 回海岸工学講演会の準備状況について（森委員）

- ・実行委員会に平石氏が加わった。見学会は未定，次回までには決めたい。
- ・5 会場，展示スペース 2 箇所（最大 20 ぐらい），委員会スペースは 3 箇所，国際セッションは委員会スペースの 1 箇所を当てる。
- ・観光のピークと重なるので，宿は最低 3 か月前に予約しないと確保できない。
- ・予算は資料の通り。

5. 第 58 回海岸工学講演会の開催（会場など）について（小笠原委員）

- ・ 2011 年 11 月 9 日～11 日，アイーナ岩手（盛岡駅前）仮予約済み.
- ・ 見学会は講演会前または後にツアー形式で行い，候補地は胆沢ダム，平泉，一関遊水池.
- ・ 懇親会はホテルメトロポリタン盛岡.
- ・ 協賛先として東北地整，岩手県と交渉予定.
- ・ 予算 235 万円

- ・ 第 59 回開催地として，中国地方で検討する（黒岩委員）.

6. Coastal Engineering Journal について（水谷小委員長，佐々木副委員長）

- ・ 毎号 4 編確保できている．Web 統計できるようになり，昨年 70 編投稿があった.
- ・ 購読数 113 で伸び悩んでいる．購読数が伸びないことから，World Scientific 社に毎年 8,000 ドル払っている．電子出版をどう考えるか，印刷体を何冊以上という契約を見直すか検討中．他の出版社としてスプリンガーにも話を聞いたが，現状と同程度の費用はかかる見込み．スプリンガーとは継続して話を進める.
- ・ CEJ Award（JAMSTEC 中西賞）について，候補論文 16 編に対して投票の結果 Lee & Mizutani の論文に決まった.

7. 研究小委員会等の活動について

- ・ 広報小委員会（武若小委員長）  
海岸工学データベースの更新，海岸災害情報の収集に関する検討，データのリンクについての報告があった.
- ・ 沿岸域研究連携推進小委員会（重松小委員長）  
4 つのテーマを WG 形式で運営，5 月中旬に小委員会を開催予定との報告があった.
- ・ 数値波動小委員会（岡安小委員長）  
副小委員長が渡部委員から川崎委員に交替になった.  
第一期については報告書作成に向けて原稿収集中，第二期については複数グループによる計算の実施するため，メンバー募集中であるとの報告があった.
- ・ 温暖化適応策小委員会（横木小委員長）  
特に報告なし.
- ・ 津波小委員会（富田副委員長）  
地震工学委員会と連携して活動を行う．現在，メール審議にて方針調整中との報告があった.
- ・ 津波避難 WG の設置について（岡安 WG 主査）  
チリ地震津波での避難状況を受けて，避難状況の改善に向けてオリジナルな活動を行

う委員長直属 WG であり、技術的な部分と避難の関係、委員会として避難をどう考えるかの提言を行っていく。

H18 度重点研究メンバーと津波小委員会の主査+αのメンバーで、現在、24 名+オブザーバー5 名 (4/12) で活動し、まずは、アンケートの実施を検討中。

・企画構想 WG の活動に関して (森 WG 主査)

タスクは、投稿数の増加、国際展開、行政・NPO・市民との連携、人材育成であり、当面の目標は、英語セッション、投稿者のニーズの拾い上げ、他分野の取り組みの調査、論文集・講演会のあり方の提言である。

4 月初旬アンケート作成、7 月末アンケート実施、他分野の取組調査、取りまとめ、秋には改革案 (複数) を考える

1 年以内に現状認識、次年度にいろんな分野を入れて、発展させていく。

タスク実施のためには、いろいろな世代や分野を入れて、うまく発展させていく。

8. 第 46・47 回水工学に関する夏期研修会 (B コース) 開催について (重松委員)

・第 46 回水工学に関する夏期研修会の準備状況が報告された。

日時：2010 年 8 月 11 日～12 日

場所：神戸大学

A コース：都市水害の実態と適応策、各テーマ、人選確定済み

B コース：データから見る沿岸域、各テーマ案の提示、講師 (自薦・他薦) 募集中

・第 47 回は海岸が幹事、広島で行う。黒岩委員、陸田委員 (水工との窓口) で調整中。

9. その他

・ Coastal Structure が 2011 年に日本開催。

・次回 (第 1 回) 委員会 6 月 18 日 14:00～ (土木学会)

(記録者：森屋)